

土佐市の養護学校に学べ

「光の村」に中国視察団

【土佐】中国に中学生以上の生徒が学べる養護学校を開校させるため、吉林省長春市の教師ら四人が十八日まで二泊三日の日程で、土佐市新居の「光の村養護学校土佐自然学園」（西谷英雄理事長）を視察。同学園の教育方法や施設整備の在り方など、先進事例を学んでいる。
(宮崎順一)

同学園は昭和四十四年、私立の養護学校として開校した。中学も多し。全国の養護学部、高等部、専攻科の卒業生生の就職率が20年制。トライアスロ%を割る中、同学園のンやサイクリングなど場合は60%近いといを通じて「心と体を鍛う。こうした実績のある」という教育方針の教育方法を学ぼうとが特徴で、製パンや農畜産業などの技術指導が訪れた。視察団は、小学校教にも力を入れている。同学園によると、生

施設、教育方法 参考に



障害児の母親ら四人。視察団によると、中国では障害児の特別支援学級を開設。そこで教師を務めた李

援学級などが十分に整備されていないとい。そのため、福岡市の知的障害児通園施設の理事長が平成十六年、長春市の小学校に特別支援学級を開設。日に同学園を訪問。李さんは「小学校の特別支援学級で情緒が安定したり、コミュニケーションを取れたりするようになった障害児が、中学校で再び元に戻ってしまっている。そうした子どもを支援できるよう、働くことも教えている日本の学校に学び参考にした」と話している。

一行は福岡市の福祉施設などを回り、十六日に同学園を訪問。李さんは「小学校の特別支援学級で情緒が安定したり、コミュニケーションを取れたりするようになった障害児が、中学校で再び元に戻ってしまっている。そうした子どもを支援できるよう、働くことも教えている日本の学校に学び参考にした」と話している。

(土佐市新居)